

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「異物混入、自治体に“指導徹底を”厚労省が通知」
- 2) 「日本の“介護食”売り込み サンフランシスコの食品見本市」
- 3) 「日本調剤が電子版“お薬手帳プラス”」

1) 「異物混入、自治体に“指導徹底を”厚労省が通知」

食品への異物混入が相次いでいることを受け、厚生労働省は9日、同種の事案を防ぐため事業者の指導を徹底するよう求める通知を全国の自治体に出した。

通知は、事業者に必要な取り組みとして、食品を扱う施設では吸排気口や排水溝に網戸やふたを設置して昆虫などの侵入を防ぐことや、設備に故障や破損がある際には速やかに補修して適正使用に努めることを挙げた。

また、消費者庁も自治体と国民生活センターに対し、各地の消費生活センターに異物混入の相談があれば最寄りの保健所を案内するよう通知。重い健康被害の情報は速やかに同庁に報告するよう要望した。

様々な異物混入例が連日報道されているが、今まで表に出なかったものが出てきているだけでこれまでも日常的に起こっているものだと思う。
企業規模が大きければ大きいほど件数も多いと思うので、マクドナルドの件ではまだまだほんの一部なのかもしれない。
事故をゼロにするのはもちろんだが、いかに件数を減らすかはやはり今一度のチェックが重要だと思う。このように国や自治体が先導してガイドラインなどで徹底し、問題解決に向かうことを願いたい。

2) 「日本の“介護食”売り込み サンフランシスコの食品見本市」

米カリフォルニア州サンフランシスコで開催された食品見本市で11日、日本の農林水産省と企業が合同で、おかゆやチューブ入り果汁など高齢者が食べやすいよう加工した「介護食品」を紹介した。

世界で有数の高齢化社会の日本は介護食品の開発が進んでいるといい、輸出を促進する狙いがある。

エビ入りのおかゆを試食した同州サンディエゴの会社員アントニオ・キノトさんは「おいしい。味が薄めだけど健康によさそう。離乳食という感じだ」と話した。

“高齢化先進国”だからこそできる商品開発で海外にも介護食を広めて輸出産業の後押しとなれば良いと思う。技術、機能性、気配りなど日本ならではの細やかな配慮で生まれる商品は海外の方にも受け入れてもらえるのではないかと。今後の動きに注目したい。

3) 「日本調剤が電子版“お薬手帳プラス”」

調剤薬局大手の日本調剤は、医療系ITベンチャーのメディエイドの協力を得て、服用履歴などをスマートフォンやパソコンで一括管理できる電子版の「お薬手帳プラス」を開発し、10月1日から患者や家族向けに無料でサービスを始める。

同社の調剤薬局が発行した領収書にあるQRコードを読み取り、アプリ上で会員登録すると、服薬情報や薬の効能効果、飲み忘れチェック、年間医療費の通知、健康記録など多彩な機能を利用できる仕組み。

当面は首都圏や全国主要都市にある16店舗で始め、今年度内に全店舗（9月末現在で500店舗）で運用できるようにする。

自身も手帳に服薬情報を管理しているが、やはり手間とを感じる面も多く、持って行くのを忘れたりすることもある。

このように電子管理して貰えたら手間も減るし、離れて住んでいる家族の情報を確認したりも出来るので良さそうだ。

今回は以前より提供されていたブラウザ・アンドロイドに続いてiPhone版のリリースニュースだが、使用者が増えるにより使いやすいように改良も重ねられていくと思うのでありがたい。